

徳島地方気象台のホームページをご観くださりありがとうございます。台長の明田川保（あけたがわたもつ）です。本年もどうぞよろしく願いいたします。

令和元年は、台風第8号、第10号などの影響により徳島県内で大雨が降りましたが、幸いにも大きな災害に結び付くことはありませんでした。しかし、台風第15号や第19号による東海、関東、東北各地における被害は甚大であり、台風の進路が少し違っていれば徳島も同様だったかもしれません。私ども気象台職員一同は、災害の恐れのある気象現象を予測、あるいは観測すれば、皆さんの避難行動等を的確に支援するため、適切なタイミングで防災気象情報を発信するよう努めています。また、昨年から「警戒レベル」が導入され、自治体の発令する避難情報と私どもの発表する防災気象情報が「共通のものさし」で理解できるようになっています。ぜひ、警戒レベルの意味と危険度分布などの防災気象情報の利用方法をご理解いただき、いざというとき率先して行動を起こすことをお願いしたいと思います。大きな災害の発生が稀であるのは事実ですが、本当にそれが起こってしまったとき、助かるのは行動を起こしていた人であることを忘れないでください。気象庁では情報の精度を上げる努力を続けています。しかし、完璧な予測はできません。東日本大震災を経験した岩手県釜石市の少女の言葉をここに書いておきます。それは、津波だけでなく、大雨による土砂災害、洪水などにも言えることだと思っています。

「100回逃げて 100回来なくても 101回目も必ず逃げて」  
自らの命、ご家族の命を守れるのは皆さん方ご自身です。私どもはぜひそのお手伝いさせていただきたい、心からそう考えています。



令和2年1月 徳島地方気象台長 明田川 保